

1 幼稚園の教育目標

いきいきと やる気を持って 遊ぶことができ 自立心のある子どもに育てる

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

- 1、明るく健康な子に（あいさつ、おはよう・ありがとうなど）
（体をいっぱい使ってあそぼう）
- 2、自立心があり 周りの人のことをよく理解できる子に
- 3、身の回りの事物に関心を持つ子に（自然との関わり、園外に多く出る）
- 4、言葉をよく理解して上手に使える子に（お話をしっかり聞く、話す）
- 5、積極的に表現できる子に（自分の思いをことばや絵に）

3 評価項目の達成及び取組状況

※関係者評価の欄に記入してください。

よい 努力したい
A - B - C - D 4段階

評価項目	結果	理由	関係者評価	意見
① 保育の計画性	B	大半の職員が月案、週案、日案を立て、近い見通しを持って、保育計画を立てることができていた。大きな行事においては、早い時期での立案や準備の必要性を感じながらも、実際には間際になってしまうことが多かったように思う。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・先生方の負担が少なくできれば、もっと良い。 ・時間の使い方の工夫が望ましい。 ・努力の様子は伺える。実現できるよう願う。
② 保育のあり方 子どもへの対応	B	担任は、一人一人の子どもをよく見て、一人一人に合わせたかかわりをするよう努力してくれていた。園全体としては、子どもの育ちや育ってきた環境、個性等について、多くの視点から観察をし、意見交換をすることで、より子どもを知ることができることはわかっていながらも、その余裕がなかった。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の個性を大事にしている。今後も色々な視点から子どもを知る努力を。 ・時間的又は人為的余裕の不足と思われる。
③ 教師としての資質能力、	B	特に経験の浅い職員には、積極的に研修へ参加し様々なことを学び、資質を高めて欲しいと願う。本年度も、経験のある職員への業務負担が多かったように感じる。行事や保育等、		<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に研修に参加することを優先してほしい。 ・先生方の事務的

適正など		様々なことを園全体のこととしてとらえるというよりも、個人で抱えてしまうことが多かった。今後、職員一人一人が、様々なことを自分のこととして考え協力し合えるよう、コミュニケーションを深めていきたい。また、報告・連絡・相談を密にしていきたいと思う。		負担が少しでも減って子ども達に注げたら良いと思う。 ・一人一人が相手の立場を自分に置き換えられるような話し合いが持てたら必然的に結果が出てくると思う。
④ 保護者への対応	A	認定こども園3年目となり、園の方針を理解し協力してくださる保護者が増えたように感じる。一方で、保育園当時と比較する方もいないとは言えない。園の考えを理解して頂けるよう、より努力をしていきたい。行事等では、多くの方が我が子だけでなく、園の子ども達の成長を喜んでくださっているように感じた。今後も、子どもが中心であることを念頭に、保護者の立場に立って考えることを忘れずに対応していきたい。また、園の方針は守りつつ、保護者からのご意見を参考にさせていただきながら、保育を進めていきたい。	A	・園の教育方針を今後も守って保育してほしい。 ・人が増えれば、色々な意見が出て対応が大変だと思う。 ・なかはら幼稚園で良かったという話も聞きます。一人一人の努力の結果だと思う。
⑤ 地域の自然や地域との関わり	B	聴覚特別支援学校幼稚部との交流保育、中学生の体験学習の受け入れ、公園清掃等、地域の方とのかかわりが持てるよう取り組んできた。また、田植えや稲刈りで他園と交流をすることができたり、大里西小学校の校庭で遊ばせていただいたり、貴重な経験をすることができた。昨年度に引き続き、大里中学校3年生の家庭科の授業を受け入れた。	A	・交流保育や公園清掃等、今後も地域や他園との交流を続けてほしい。 ・自然の中での他者との交流は素晴らしいこと。続けてほしい。
⑥ 研修と研究	A	幼稚園・保育園問わず、様々な研修会に参加させていただけるため、広い分野で学ぶことができたと思う。研修で得た知識や情報を再確認し、共有したり提供したりすることができた。せっかく得た知識や情報を今後さらに、保育に生かしていけるようにしたい。	A	・研修の成果を保育に生かして、更に精進してほしい。 ・学んだことを共有、提供することは素晴らしく、

				自分自身の為になると思う。
⑦ 外部アンケート	A	未就園児対象の催し物では、多くの方が参加してくださった。「楽しかった」「もっと回数を増やしてほしい」という感想もあった。運動会や発表会、ゆめのひろば（総合活動）等では、「いつもとは違う表情の子どもを見て成長を感じた」「子どもが、楽しかったと言っていたことが、一番だと思う」「子ども同士で助け合っている姿が良かった」「クラス関係なく、大勢の子が我が子に声をかけてくれてびっくりした」等の感想をいただいた。これからも、子ども達にとって何が大切かを第一に、保護者と園とが協力していきたい。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・少子化の中、未就園児対象の催しは、今後も力を入れてほしい。 ・子どもも保護者も楽しそうにしていた。 ・親子で成長できた様子が伺える。

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

各学年とも重点課題のねらいは、ほぼ達成できたように思うが、複数人での挨拶はできるが、登園時の「おはよう」が言えない子が多く、気になる点である。保育者自らが元気な挨拶を心掛けたいと思う。劇遊びやごっこ遊びでは、表現する楽しさを感じてくれたようだが、お話を聞くことや観ることが苦手な子も多く、身の周りの物事や他人に無関心ではない子を育てていきたいと思う。季節の自然現象に出会ったり、園外保育で貴重な経験をしたりし、様々な経験をしてきたが、昨年度も課題と感じていた、歩くことに慣れていない子が多いということを念頭においての保育の実現が難しかった。

課題	具体的な取り組み方法
指導計画の編成	一年を通して、子ども達に様々な経験をさせたいと願うあまり、幼児は特に行事に追われてしまうこともある。このことは毎年頭を悩ませながらも、いまだ改革ができていない。子どもにとって大切なことを今一度考えたい。また、全職員の教育・保育観、保育に対する姿勢、行事に対する具体的なイメージの統一がより一層望まれる。
園外保育	園バスだけでなく、徒歩での園外保育も積極的に取り入れていきたいと思いつつも、ほぼ実施することができなかった。園バスで出掛ける園外保育も、教育課程を考えるうえで大切なことだと感じる。しかし、遠くへ出掛けるだけでなく、園の近くで散歩を楽しむことも、考えていきたいと思う。
ICT化と仕事の効率化に向けて	業務軽減の為に昨年度より導入したICTシステムだが、まだ上手く活用することができず、業務軽減にはつながっていない。経験のある職員の育児休業や中途退職者が多く、常に人手が足りなく非常に厳しい状況であった。ICT化では補うことができない仕事については、乳幼児問わず全職員で協力し、仕事の効率化を図るよう、努力したい。また、仕事の優先順位を考えたり、教材研究を

	<p>きちんとしたりしたうえで保育準備を進める等、仕事が無駄にならない努力・工夫をしたい。</p>
<p>評価委員からの コメント</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自動車社会になって、親子で歩く姿が少なくなっています。公共の場でのマナーも小さなうちに教えていく必要があると思います。歩いて教える重要性を感じていますが、親子で学んでもらえることを願っています。 ・熱心に保育に取り組んでいると思っています。職員が、子どもの成長を喜び、自分自身も高めている素晴らしい相乗効果だと思います。失敗を恐れず、保護者と共に子どもの成長のため、しなやかにパワフルな時間を過ごしてほしいと願っています。 ・中途退職者の減少に歯止めをかける為、努力してください。 ・先生方が、子ども達に集中できる環境が少しでも整えばよいと思います。